

当院にて、高校生のふれあい看護体験が行われました

令和5年5月19日(金)畑病院にて、大分県主催事業のふれあい看護体験が開催されました。大分県立別府鶴見丘高等学校の3年生2名が参加して、防護具の着方や血圧測定、清拭などの看護体験をしました。

●体験風景

1) 防護具の着用体験

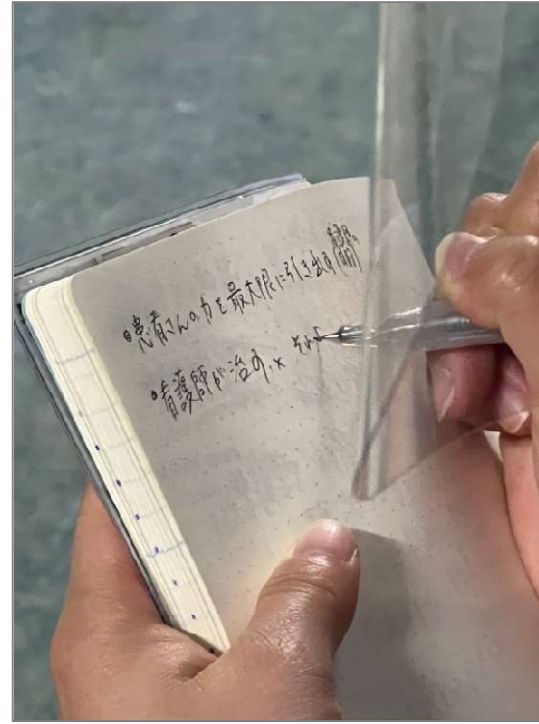


最初は、感染拡大防止のために必須のアイテムであるガウン、フェイスシールド、N95マスク、ゴム手袋の着用を行いました。ガウンを少し着用しただけで汗をかいたり、ゴム手袋着用にかかる時間がかかるなど、最初から大変さを感じていた様です。

2) 血圧・血中酸素飽和度の測定

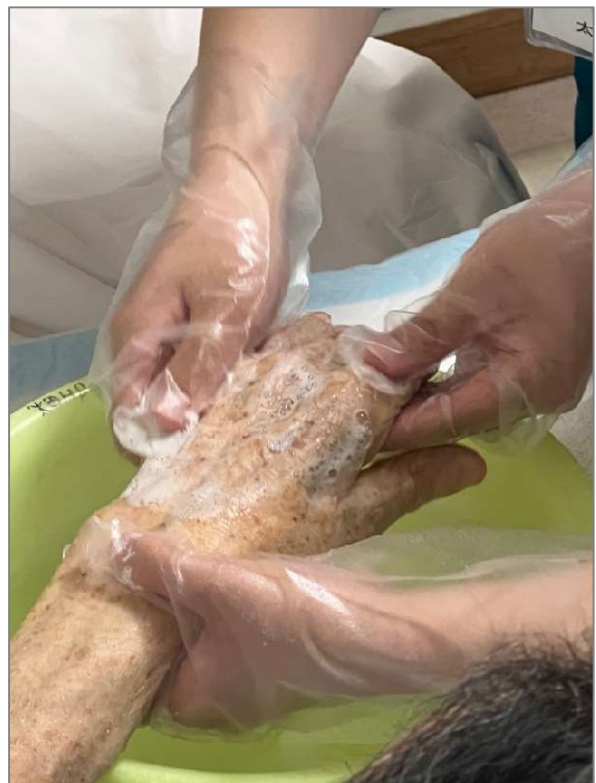


上腕にカフを巻き血圧測定を行いました。看護師は簡単にカフを巻いていたのですが最初、ゆるかったり、キツかったりと苦労していました。血中酸素飽和度測定では意外とすんなりといきました。



入院患者様への看護について説明を受ける二人。

3) 清拭体験



患者様への清拭を行いました。病状の関係で入浴が難しい患者様へ実施し、熱くないか、気持ち悪いところはないかなど声掛けをしながら行っていました。終わると、患者様よりお礼の言葉をいただき二人はニコニコ嬉しそうでした。しかしあとで「実は患者様の皮膚を痛めたらどうしよう、痛いって言われたらどうしよう、って思いながら顔の表情も見ていて終始ビクビクしていました」と話されました。

4) 患者様への質問



この患者様は、数ヶ月前は歩くことができず希望を見出せなかったが、今では長い廊下を往復してもまだ余裕があり、トレーニングマシンを使用されるまでに回復されています。患者様より、今では帰ってからのしたい事が沢山ある、二人には是非やりたい事をやって欲しい、もし失敗してもやり直しは何回もできるとのお話を頂きました。このお話を聞いた二人の目には涙がありました。二人は、人生の先輩でもある患者様のお話の内容が今までの生活や今後の進路選択に重なったようで、思わず涙が溢れたと話されました。



看護体験を終えて二人より「将来、医療職を目指したい思いが強くなりました」「患者様や看護師が優しくて、最初のイメージから変わりました」と話されました。